

## 南アフリカの柑橘類事情(オレンジ、グレープフルーツ、ソフト柑橘類、果汁)

[米国農務省GAINレポート 2024年12月18日](#)

これは米国農務省海外農業局のプレトリア事務所(南アフリカ)が作成した「柑橘類年次報告書」(一部省略)を訳したものであり、米国政府の公式見解及びデータとは異なる場合があります。

### 概要

2024/25販売年度(年度)には、価格が高騰している果汁用の出荷が低リスクの代替手段となるため、南アフリカの生産者はより多くの柑橘類を加工に振り向けると予測される。2024/25年度のオレンジ、グレープフルーツ、タンジェリン/マンダリン、レモンの生産量は、平年並みの天候条件、新植された果樹の成木化、灌漑用水の確保を前提に、増加するものと予測される。2024/25年度のグレープフルーツ、レモン、タンジェリン/マンダリンは、輸出品質の果実の生産量が増加し、輸出量も増加すると予測される。オレンジ果汁の国内消費量は、価格の上昇によりやや減少すると予測される。南アフリカは、2023/24年度に過去最大の量のグレープフルーツを米国に輸出したと推定される。

### 要約

**オレンジ:** 2024/25年度のオレンジの栽培面積は、果汁用原料価格が通常よりも高く、バレンシア種の苗木の発注が増加したことから、1%増の4万4,500ヘクタールと予測される。2024/25年度のオレンジは、悪天候の影響を受けた2023/24年度と比較して品質が向上し、生産量は1%増の169万トンと予測される。果汁価格の高騰により、生産者が輸出品質の果実の一部を加工用に転用することが予想される。このため、当事務所は、2024/25年度の輸出量は1%減の110万トンと予測する。

**グレープフルーツ:** グレープフルーツの栽培面積は縮小してきており、2022/23年度の果樹センサスによると、世界的な消費量の減少傾向を反映して苗木の販売が最低水準となっている。当事務所は、2024/25年度の栽培面積を、2023/24年度に比べて1%減の7,900ヘクタールと予測する。2024/25年度の実産量は、平年並みの天候条件を前提に1%増の42万5千トンと予測される。生産量の微増は、輸出量の増加につながると予想される。加工原料価格が通常よりも高いことから、生産者は加工用の供給量を増やすことが予想される。南アフリカの米国向けグレープフルーツの輸出量は、2023/24年度の年度初めからこれまで(2024年2月~10月)に23%急増しており、年度合計では記録的な量を米国に輸出するものと推定される。

**タンジェリン/マンダリン:** 当事務所は、2024/25年度のタンジェリン/マンダリン(南アフリカでは「ソフト柑橘類」に分類される)の生産量を、平年並みの天候条件と若い果樹の成木化により3%増の79万トンと予測する。2024/25年度の国内消費量は、生産量の増加と国内需要量の増加により、2%増の4万8千トンと予測される。輸出量は、生産量の増加に伴い3%増の67万4千トンと予測される。

**レモン:** 2024/25年度のレモンの生産量は、平年並みの天候条件と灌漑用水の確保を前提に、2023/24年度に比べて7%増の78万トンと予測される。生産量の増加と収穫物の品質の向上により、2024/25年度の輸出量は11%増の59万トンと予測される。加工用レモンの価格は下落し、採算が取れないと見込まれる。したがって、2024/25年度の加工仕向量は、2023/24年度から3%減少すると予測される。

**オレンジ果汁:** 当事務所は、果汁価格が通常よりも高いことから、2024/25年度のオレンジ果汁の製造量を2023/24年度に比べて4%増の5万7,100トンと予測する。生産者は、輸出用の果実を加工用に転用し、包装と輸送のコストを削減しつつ、良好な収益を得るものと見込まれる。2024/25年度のオレンジ果汁の国内消費量は、小売価格の上昇により、2023/24年度から1%減少すると予測される。2024/25年度のオレンジ果汁の輸出量は、製造量の増加により1%増の4万1,500トンと予測される。

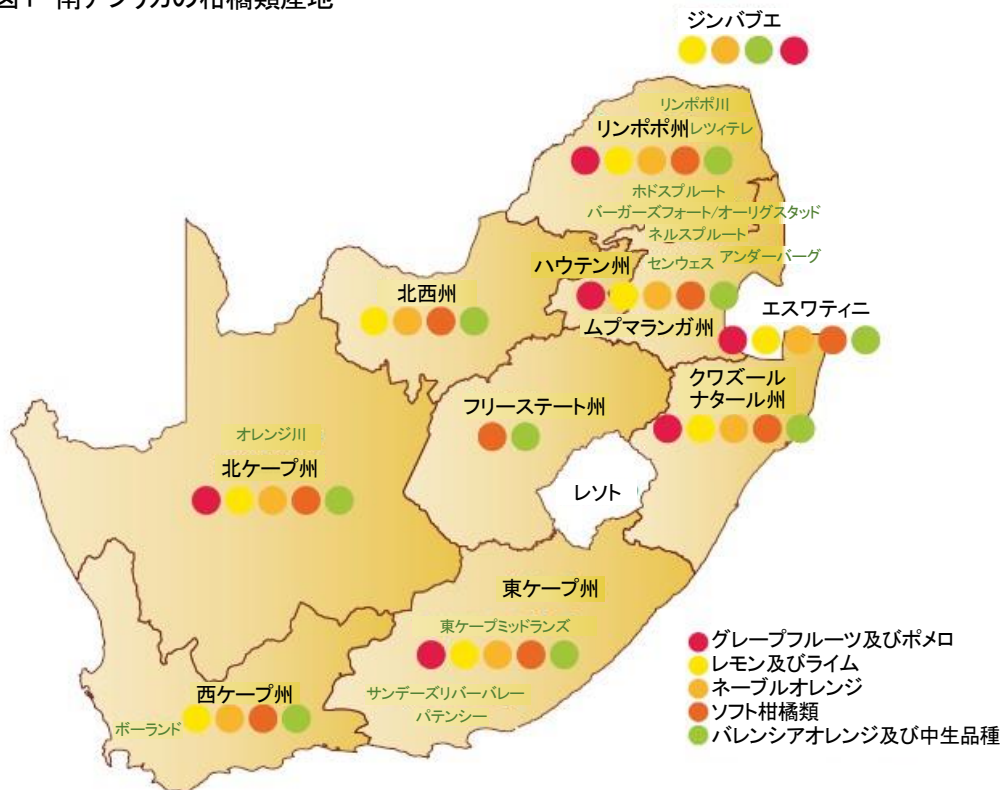
### 報告書注

グレープフルーツとレモンの販売年度(年度)は1月~12月、オレンジとタンジェリン/マンダリンの販売年度は2月~翌年1月、オレンジ果汁の販売年度は4月~翌年3月である。この報告書で使用されている為替レート(2024年12月2日現在)は、1米ドル(USD) = 18.16南アフリカランド(ZAR)である。

## 背景

南アフリカの柑橘類は、主にリンポポ、東ケープ、西ケープ、ムプマランガの各州で生産されている(図1)。西ケープ州と東ケープ州は比較的冷涼で、ネーブルオレンジ、レモン及びクレメンタイン、ウンシュウミカン等ソフト柑橘類の生産に適している。ムプマランガ、リンポポ、クワズールナタール(KZN)の各州は比較的温暖で、グレープフルーツ及びバレンシアオレンジの栽培により適している。南アフリカの柑橘類の合計栽培面積は、2021/22年度の9万6,277ヘクタールから2022/23年度には9万5,980ヘクタールと0.3%減少した。

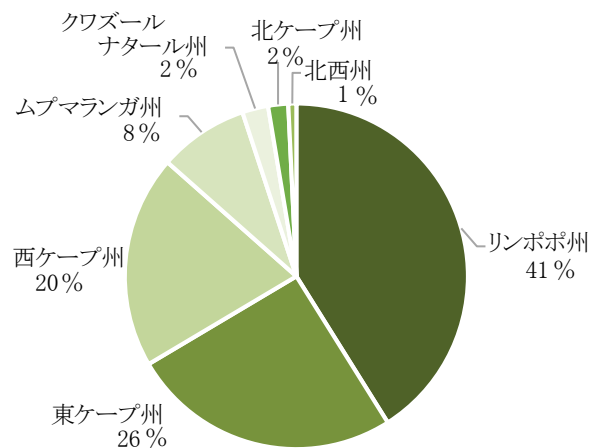
図1 南アフリカの柑橘類産地



出典: 柑橘類生産者協会(CGA)

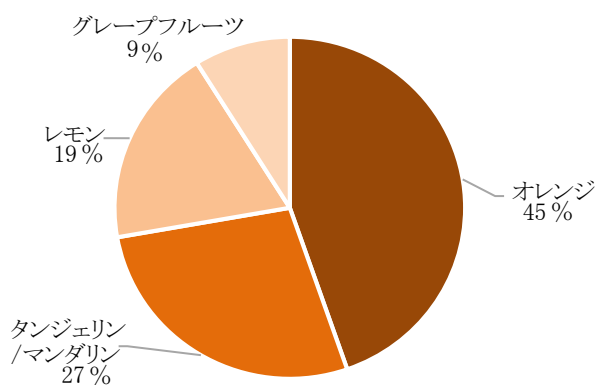
注: 本報告書では、ネーブル種、バレンシア種及び中生品種はオレンジに分類され、タンジェリン/マンダリンはソフト柑橘類に含まれる。

図2 柑橘類の地域別栽培面積シェア



出典: CGAのデータを使用して当事務所が作成

図3 柑橘類の種類別栽培面積シェア



出典: CGAのデータを使用して当事務所が作成

図3は、オレンジが南アフリカで最も多く栽培されている柑橘類であり、2022/23年度の柑橘類総栽培面積の45%を占めていることを示している。一方、タンジェリン/マンダリンは、柑橘類の総栽培面積に占める割合の増加が最も大きく、2015/16年度のシェアは約16%であったが、2022/23年度には27%に増加した。

南アフリカでは、少なくとも210の商業用柑橘類品種が栽培されている。表1は、南アフリカで栽培されている最も一般的な柑橘類の品種を示している。スタールビーは最も栽培面積が大きいグレープフルーツ品種であるが、最近の苗木の販売状況はグレープフルーツへの関心が大幅に低下していることを示している。生産者は、ネーブル種よりも貯蔵寿命が長く、収量が多いバレンシア種のオレンジを好む。ナドルコットは、南アフリカで最も人気のあるソフト柑橘類品種の1つである。

表1 柑橘類の品種

| 柑橘類の種類           | 品 種 名  |
|------------------|--|
| グレープフルーツ         | スタールビー、マーシュ、ジャクソン、ポメリット、ローズ、レッドハート   |
| オレンジ             | バレンシア種/中生品種: ミッドナイト、バレンシアレイト、デルタ、ターキー、ベニー、デュロワ、グソコラ、ジャシー                     |
|                  | ネーブル種: カンプリア、パーマー、バイアニーニャ、ワシントン、ウイトクラン、カラカラ、ナベリーナ、ロビン、レーンレイト、オータムゴールド、ニューホール |
| タンジェリン/<br>マンダリン | ウンシュウミカン: 三保早生、クイーン、尾張、ベラベラ、宮川早生   |
|                  | クレメンタイン: ミュール、アンデス-1、オクトゥブリーナ、エスバル、マリソル                                      |
|                  | マンダリン: ナドルコット、ナドルコットLs、タンゴ、ノヴァ、リーンリ、オツリ、ラム、モル、パレーゴールド、タンバー、シーガル              |
| レモン/ライム          | ユーレカ、リスボン、2Phシードレス、リモネイラ8A、ジェノア、ユーレカシードレス、レモネリア                              |

出典: CGA

表2 南アフリカの柑橘類の収穫期

| 柑橘類の種類         | 収穫期   |
|----------------|-------|
| マーシュグレープフルーツ   | 3月～6月 |
| スタールビーグレープフルーツ | 3月～9月 |
| ネーブルオレンジ       | 3月～7月 |
| バレンシアオレンジ      | 5月～9月 |
| タンジェリン/マンダリン   | 3月～8月 |
| レモン/ライム        | 1月～8月 |

出典: CGA

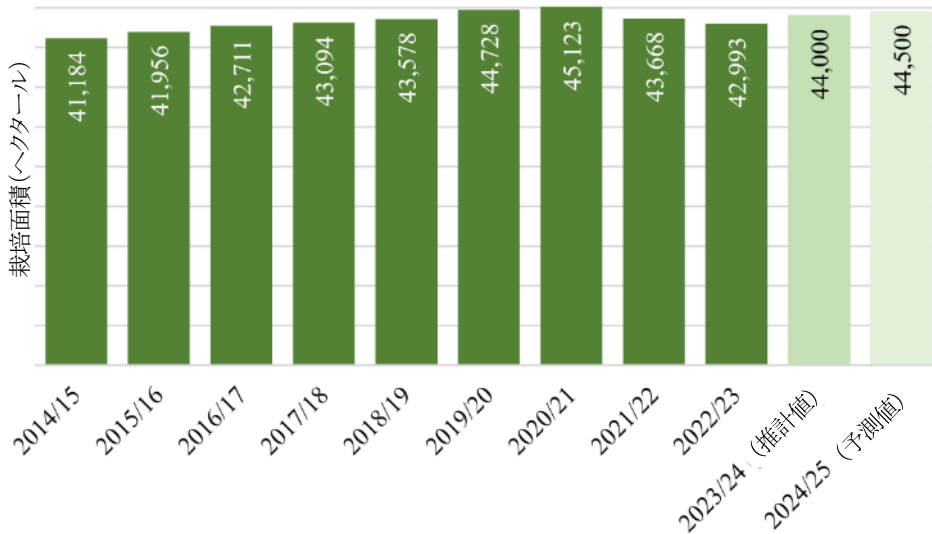
## <オレンジ(生鮮)>

### 栽培面積

当事務所は、南アフリカの2024/25年度のオレンジ栽培面積を、2023/24年度に比べて1%増となる4万4,500ヘクタールと予測する。オレンジの苗木の注文状況は、ブラジルのオレンジ生産量の減少による果汁価格の上昇を受けて上向いた。当事務所の情報提供者らによると、2023/24年度のバレンシア種の苗木は完売し、注文はベニー、ジャシー、ターキー及びミッドナイトバレンシアの各品種の合計が大半を占めた。したがって、当事務所は、2024/25年度の苗木の発注もバレンシア品種が優勢であると予想する。当事務所の情報提供者らの報告によると、果汁価格は短期的には通常よりも高止まるとの楽観があり、生産者は、輸送費や梱包費用なしに出荷できるリスクの低い代替市場である果汁用により多くの果実を出荷するものと見込まれる。生産者らはまた、市場の需要動向に合わせて、一部の早生のネーブル種を晩生のネーブル種に転換しているようである。

図4はオレンジの栽培面積の推移を示しており、2020/21年度にピークを迎えている。2023/24年度の栽培面積は、主に果汁用原料価格が高いため、2%増の4万4千ヘクタールと推計される。

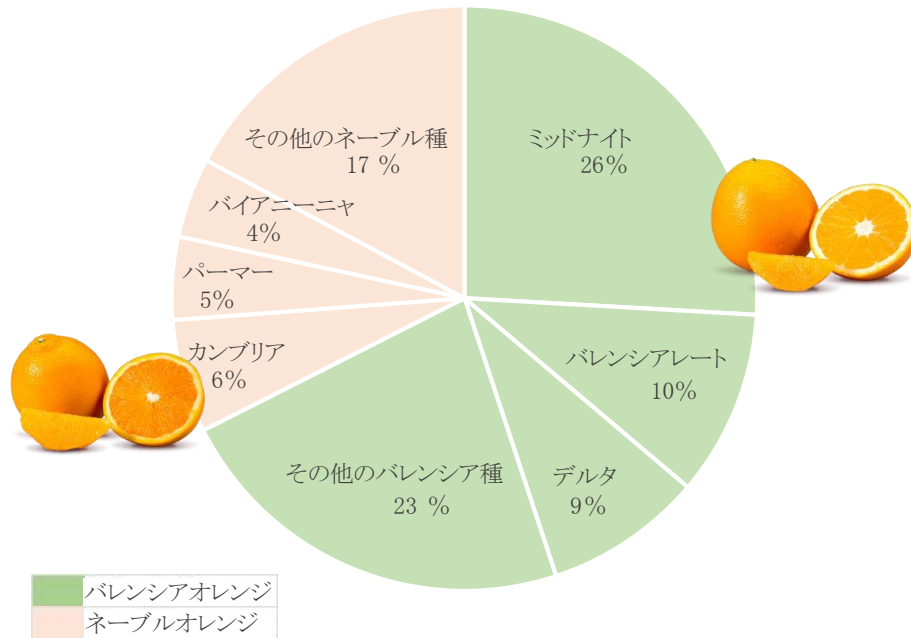
図4 南アフリカのオレンジ栽培面積



出典：CGAのデータを使用して当事務所が作成

リンポポ州は南アフリカで最大のオレンジ産地であり、総栽培面積の50%を占め、東ケープ州(24%)と西ケープ州(15%)がこれに次いでいる。

図5 南アフリカで栽培されるオレンジ品種



出典：CGAのデータを使用して当事務所が作成

バレンシア種はオレンジの全栽培面積の3分の2を占め、ネーブル種が残りの3分の1を占めている。栽培されている主な品種はミッドナイトが総栽培面積の26%を占め、次いでバレンシアレート(10%)、デルタ(9%)、ベニー(7%)、ターキー(7%)となっている。南アフリカで栽培されているその他の品種は、カンブリア、パーマー、バイアニーニャ、ワシントン等である。

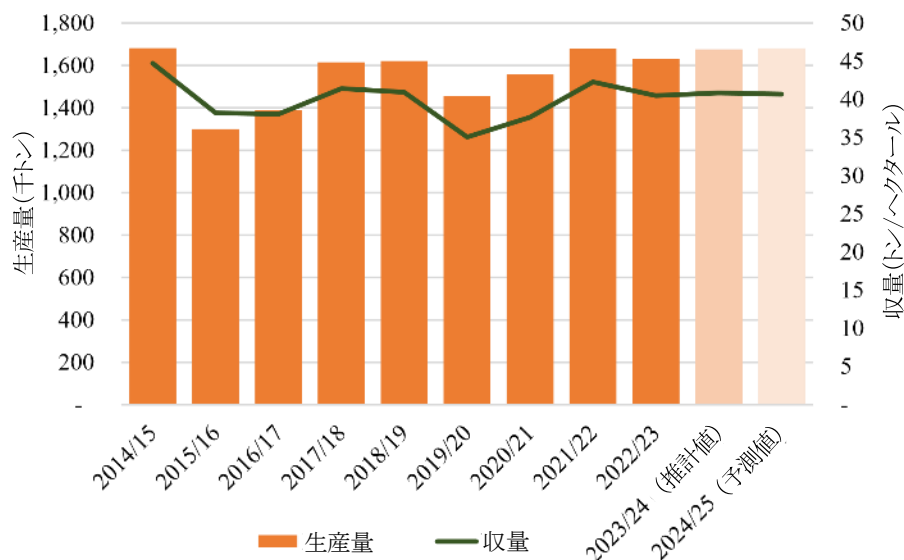
## 生産

当事務所は、平年並みの天候条件と灌漑用水の確保を前提に、2024/25年度のオレンジ生産量を前年比1%増の169万トンと予測する。当事務所はまた、2023/24年度産と比較して、果実の品質と収量が改善すると予想する。

2023/24年度は悪天候が果実の損失につながったため、当事務所はオレンジ生産量の推計値を168万トンに引き下げた。悪条件はまた、果実の着色の問題と小玉化を通じて果実の品質を低下させた。北部地域では、2023年12月に約10日間非常に暑い日が続く中で出荷シーズンが始まり、その結果、果実のサイズが小さくなったと生産者からは報告している。西ケープ州での季節外れの雨と洪水、センウェス地域での降霜、東ケープ州の強風により、一部の果実が失われた。悪天候はさらに、着色の問題や果実の品質の低下にもつながった。しかし、2023/24年度の実生産量は、灌漑用水の確保により、2022/23年度と比較して7%多かったと推定される。

2022/23年度の実生産量は、リンポポ州、西ケープ州、東ケープ州の産地で発生した大雨と雹を伴う嵐により、前年度から3%減少して163万トンとなった。図6は、2014/15年度以降の南アフリカのオレンジ生産量の推移を示している。

図6 南アフリカのオレンジ生産量の推移



出典：農業・土地改革・農村開発省 (DALRRD) のデータを使用して当事務所が作成

## 輸出

2024/25年度は加工用オレンジの価格が通常よりも高く、輸出用オレンジが加工用に振り替えられるため、当事務所はオレンジ輸出量を2023/24年度から1%減となる110万トンと予想する。南アフリカのオレンジ輸出では通常、ダーバン港(54%)及びケープタウン港(21%)から出荷される。重要な機器の故障により、輸出市場への果実のタイムリーな輸送が妨げられており、業界関係者からは港湾の稼働状況について今も懸念を抱いている。南アフリカの果実業界は、輸出のリスクを管理するため、港湾当局と引き続き連携している。

当事務所は、南アフリカの2023/24年度のオレンジ輸出量の推計値を、2022/23年度から10%減となる111万トンに引き下げる。当事務所の情報提供者らの報告によると、2023/24年産のオレンジはサイズが小さかったため、1箱を満たすために必要な果実数は2022/23年度と比較して4%多くなった。悪天候も輸出品質の果実の減少につながり、生産者は輸出用の十分な量を得るのに苦労した。さらに、2023/24年度の果汁用果実の価格が通常よりも高かったため、生産者は輸出用の果実を加工用に出荷した。

2022/23年度の輸出量は、前年比5%減の123万トンであった。生産者は、カンキツ黒星病(CBS)やフォールスコドリリングモス(FCM)の検疫を懸念して、晩生のバレンシアオレンジのEUへの輸出を控えた。

南アフリカは世界100カ国以上にオレンジを輸出しているが、EUは依然として南アフリカにとって最大の輸出市場であり、オレンジ輸出量の約36%を占めている。柑橘類の輸出品に免税アクセスを認めているEUとの自由貿易協定にもかかわらず、南アフリカは、CBSとFCMのために引き続き市場での植物検疫の課題に直面している。2023/24年度の2月から9月までのEUへのオレンジ輸出量は、2022/23年度の同期に比べて9%減少した。南アフリカの輸出量が全体的に減少したことに加え、CBSの発生により一部の果樹園はEUへの輸出が禁止された。

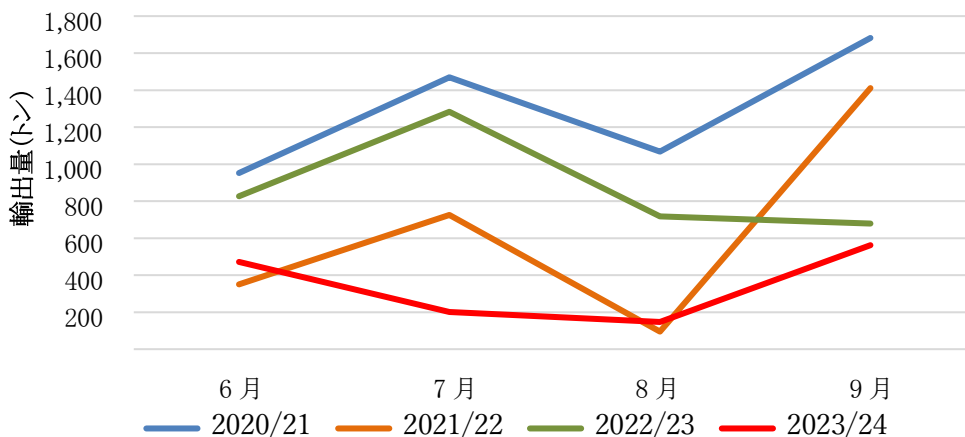
南アフリカの2024/25年度9月までの米国への輸出量は、2023/24年度の同時期と比較して26%減少した。西ケープ州では季節外れの雨のため、米国向けの果実の収穫と梱包に支障をきたした。

南アフリカは米国の夏の期間に、主としてミッドナイトオレンジを輸出している。2023/24年度の米国向け南アフリカ産オレンジの最初の荷は6月の第1週に米国に到着し、毎週の輸出は10月まで続いた。南アフリカは、米国のアフリカ成長機会法(AGOA)の下で免税アクセスの恩恵を受けている。

南アフリカは、2024年3月に発表された新しい二国間議定書の締結を受けて、2023/24年度に約890トンのオレンジをベトナムに輸出した。

南アフリカは、7千トン弱のオレンジをボツワナに輸出している。しかし、2024年には、ボツワナは出荷最盛期の国内の生産者を支援するため、6月の第3週から8月末まで南アフリカ産オレンジの輸入を一時的に禁止し、これはその後2025年まで延長された。禁止措置の結果、2024年6月から8月までの南アフリカからボツワナへの輸出量は、2022/23年度の同時期に比べて71%減少した(図8)。

図8 南アフリカのボツワナ向けオレンジ輸出量 6月～9月



出所: Trade Data Monitor, LLC.のデータを使用して当事務所が作成

表3 南アフリカの生鮮オレンジ輸出量

| 順位 | 輸出先国     | 暦年 千トン  |         |      |      | 2月～9月 千トン |         |      |
|----|----------|---------|---------|------|------|-----------|---------|------|
|    |          | 2021/22 | 2022/23 | シェア% | 増減率% | 2022/23   | 2023/24 | 増減率% |
| 1  | オランダ     | 265     | 281     | 23%  | 6%   | 257       | 239     | -7%  |
| 2  | アラブ首長国連邦 | 109     | 141     | 11%  | 29%  | 122       | 106     | -12% |
| 3  | ロシア      | 85      | 96      | 8%   | 13%  | 87        | 69      | -21% |
| 4  | 中国       | 97      | 84      | 7%   | -13% | 82        | 63      | -23% |
| 5  | ポルトガル    | 59      | 65      | 5%   | 9%   | 63        | 56      | -12% |
| 6  | 米国       | 59      | 58      | 5%   | -3%  | 54        | 40      | -26% |
| 7  | 英国       | 74      | 54      | 4%   | -26% | 49        | 47      | -3%  |
| 8  | 香港       | 48      | 48      | 4%   | 1%   | 46        | 25      | -45% |
| 9  | サウジアラビア  | 66      | 47      | 4%   | -30% | 41        | 49      | 20%  |
| 10 | カナダ      | 43      | 44      | 4%   | 4%   | 42        | 41      | -2%  |
|    | その他      | 394     | 314     | 26%  | -20% | 286       | 277     | -3%  |
|    | 合計       | 1,298   | 1,232   | 100% | -5%  | 1,129     | 1,011   | -10% |

出所: Trade Data Monitor, LLC.のデータを使用して当事務所が作成

2021年に開始されたモザンビークのマプト港からの南アフリカ産柑橘類の輸出は、アジア及び中東への輸送時間とコストを削減する画期的な取組みである。

南アフリカのオレンジのかなりの量は国の北東部で生産されており、ダーバン港よりもマプト港にかなり近い。昨シーズン、マプト港経由で出荷されたオレンジはわずか0.6%であったが、2024/25年度にはマプト経由で輸出される割合が高くなると予想される。

表5 南アフリカのオレンジの生産需給統計

| オレンジ(生鮮)<br>販売年度の始まり<br>南アフリカ | 2022/2023 |        | 2023/2024 |        | 2024/2025 |        |
|-------------------------------|-----------|--------|-----------|--------|-----------|--------|
|                               | 2023年2月   |        | 2024年2月   |        | 2025年2月   |        |
|                               | 農務省公式     | 今回推計値  | 農務省公式     | 今回推計値  | 農務省公式     | 今回推計値  |
| 栽培面積(ヘクタール)                   | 42,993    | 42,993 | 42,990    | 44,000 | 0         | 44,500 |
| 収穫面積(ヘクタール)                   | 40,250    | 40,250 | 41,000    | 41,000 | 0         | 41,300 |
| 結果樹本数(千本)                     | 39,281    | 39,281 | 39,280    | 39,280 | 0         | 39,150 |
| 未結果樹本数(千本)                    | 4,276     | 4,276  | 4,274     | 4,800  | 0         | 5,100  |
| 合計果樹本数(千本)                    | 43,557    | 43,557 | 43,554    | 44,080 | 0         | 44,250 |
| 生産量(千トン)                      | 1,630     | 1,630  | 1,687     | 1,675  | 0         | 1,690  |
| 輸入量(千トン)                      | 3         | 3      | 3         | 5      | 0         | 3      |
| 総供給量(千トン)                     | 1,633     | 1,633  | 1,690     | 1,680  | 0         | 1,693  |
| 輸出量(千トン)                      | 1,232     | 1,232  | 1,080     | 1,111  | 0         | 1,100  |
| 生鮮国内消費量(千トン)                  | 32        | 32     | 22        | 22     | 0         | 22     |
| 加工仕向量(千トン)                    | 369       | 369    | 588       | 547    | 0         | 571    |
| 総仕向量(千トン)                     | 1,633     | 1,633  | 1,690     | 1,680  | 0         | 1,693  |

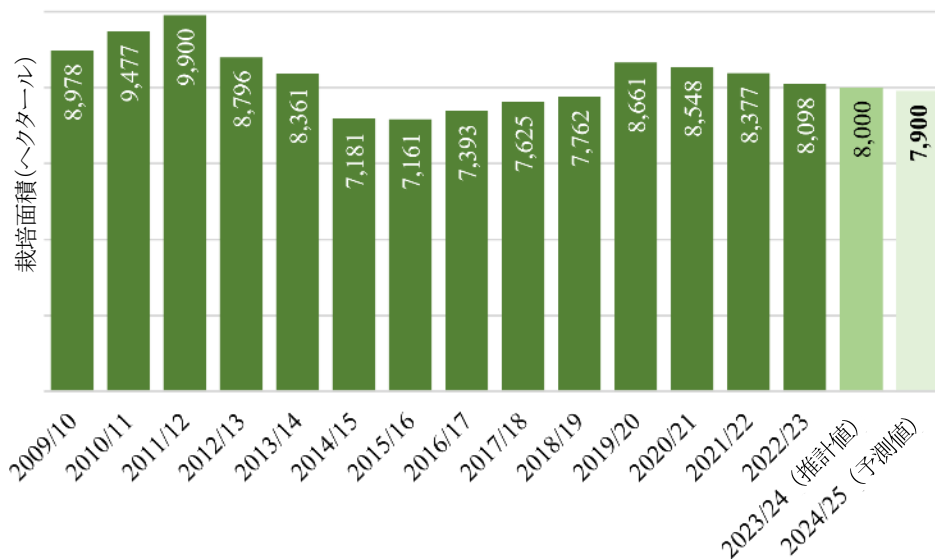
公式データは [PSD Online Advanced Query](#) から入手できる。

## <グレープフルーツ>

### 栽培面積

グレープフルーツの栽培面積は、生産者が新植を制限し、古い果樹を伐根しているため、2020/21年度以降減少している。この減少は、世界のグレープフルーツ消費量が一貫して減少傾向にあることを反映している。2022/23年度の苗木の販売は、2016/17年度以来の低水準となり、生産者が他の種類の柑橘類に移行していることを示唆している。したがって、当事務所は、2024/25年度のグレープフルーツの栽培面積を、2023/24年度の推定8千ヘクタールからさらに1%減となる7,900ヘクタールと予測する。

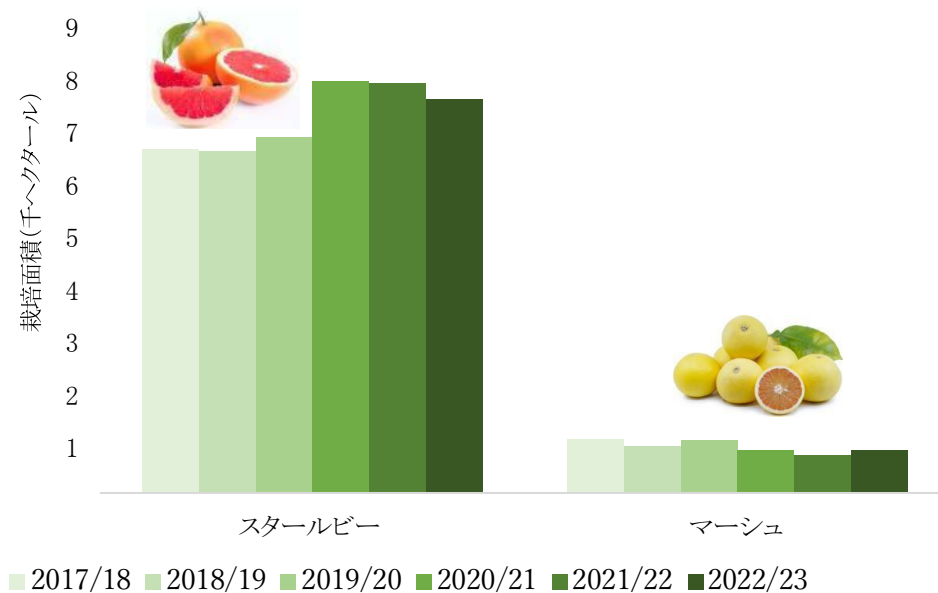
図9 南アフリカのグレープフルーツ栽培面積



出典: CGAのデータを使用して当事務所が作成

リンポポ州は南アフリカ最大のグレープフルーツ産地であり、総栽培面積の56%を占め、ムプマランガ州(20%)、クワズールナタール州(10%)、北ケープ州(6%)がこれに続く。スタールビーは、総栽培面積の88%を占める主要栽培品種である。南アフリカで栽培されているその他のグレープフルーツ品種には、マーシュ、Fe1(ジャクソン)、ポメリット、ローズ、レッドハート等がある。

図10 南アフリカの品種別グレープフルーツ栽培面積

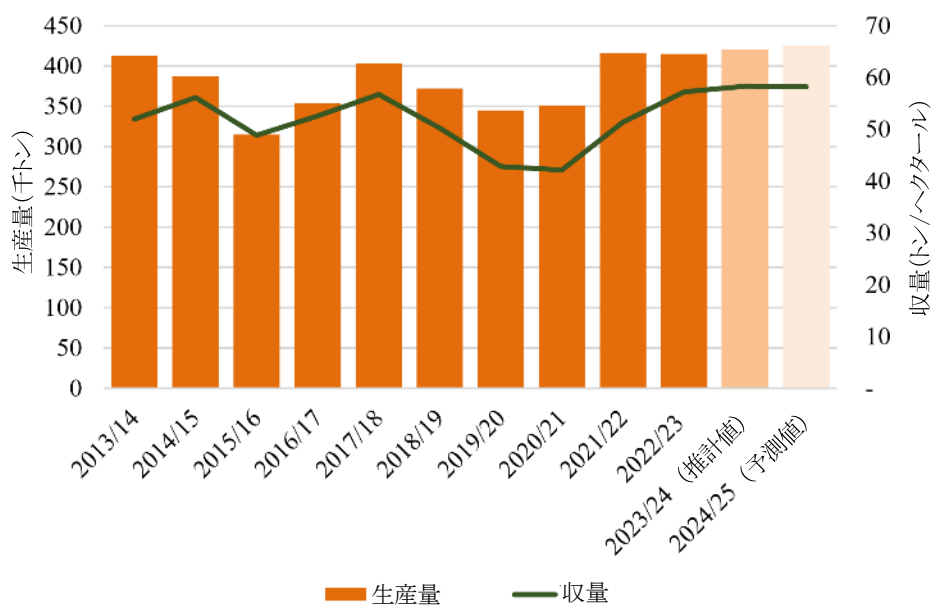


出典: CGAのデータを使用して当事務所が作成

### 生産

当事務所は、平年並みの天候条件と灌漑用水の確保を前提に、2024/25年度のグレープフルーツ生産量を1%増の42万5千トンと予測する。

図11 南アフリカのグレープフルーツ生産量



出典: 農業農地改革農村開発省(DALRRD)のデータを用いて当事務所が作成



2023年11月と12月に総じて十分な降雨があり、灌漑用水が十分に確保されたため、当事務所は2023/24年度のグレープフルーツ生産量の推定値を前年比1%増の42万トンに維持する。ただし、当事務所の情報提供者らは、12月に乾燥した期間が10日間続いたため、特に北部地域では果実の平均サイズが小さくなったと報告している。

当事務所は、2022/23年度のグレープフルーツ生産量を、主要なグレープフルーツ産地で十分な降雨量があったことに基づき、41万5千トンと推計する。図11は、2013/14年度(原文は09/10年度)以降の南アフリカのグレープフルーツの生産量と収量を示している。

## 輸出

グレープフルーツの輸出シーズンは通常、第10週(3月)に始まり、第16週から第22週(4月～6月)が最盛期で、第42週(10月)頃に終了する。輸出されるグレープフルーツの大部分はクラス1であり、加工用とクラス2の果実は限られている。最も多い品種は、南アフリカで主に栽培されていることからスタールビーである。グレープフルーツの約82%はダーバン港から輸出され、14%はケープタウン港を経由して輸出される。

当事務所は、2024/25年度の輸出量を、生産量の微増により2023/24年度に比べ1%増の21万5千トンと予測する。なお、加工用果実の価格が通常よりも高い状態が続いているため、生産者が輸出品質の果実の一部を国内の加工用に振り向けるものと予想される。

当事務所は、EUと英国の需要が2022/23年度と比較して減少したため、2023/24年度のグレープフルーツ輸出量の推定値を21万4千トンに引き下げた(表6)。この輸出量の推定値は、2022/23年度に比べて1%減となる。これは、果実が小玉化したため、段ボール箱1箱当たりの果実の入数が増え、輸出市場向けの総箱数が減少したためである。さらに、加工用果実の価格が通常よりも高いため、生産者は当初輸出する予定であった果実の一部を加工に転用した。ほとんどの市場でグレープフルーツの需要が縮小していることを反映し、全体的な輸出量は成長が減速していると見られる。

表6 南アフリカの生鮮グレープフルーツ輸出量

| 順位 | 輸出先国  | 暦年 千トン  |         |      |      | 1月～9月 千トン |         |      |
|----|-------|---------|---------|------|------|-----------|---------|------|
|    |       | 2021/22 | 2022/23 | シェア% | 増減率% | 2022/23   | 2023/24 | 増減率% |
| 1  | オランダ  | 63.4    | 72.9    | 34%  | 15%  | 72.5      | 59.7    | -18% |
| 2  | 中国    | 63.5    | 31.4    | 14%  | -51% | 30.9      | 33.2    | 7%   |
| 3  | ロシア   | 19.4    | 21.6    | 10%  | 11%  | 21.1      | 21.2    | 1%   |
| 4  | 日本    | 22.9    | 17.4    | 8%   | -24% | 17.3      | 20.4    | 18%  |
| 5  | 英国    | 9.0     | 9.3     | 4%   | 4%   | 9.1       | 8.0     | -12% |
| 6  | 米国    | 6.2     | 9.0     | 4%   | 45%  | 9.0       | 11.1    | 23%  |
| 7  | イタリア  | 4.9     | 7.2     | 3%   | 48%  | 7.2       | 7.6     | 7%   |
| 8  | カナダ   | 7.2     | 6.9     | 3%   | -4%  | 6.8       | 6.4     | -6%  |
| 9  | 香港    | 6.9     | 6.4     | 3%   | -7%  | 6.3       | 4.5     | -29% |
| 10 | ポルトガル | 4.5     | 5.4     | 2%   | 20%  | 5.4       | 5.8     | 9%   |
|    | その他   | 30.1    | 29.2    | 13%  | -3%  | 28.4      | 32.1    | 13%  |
|    | 合計    | 237.8   | 216.6   | 100% | -9%  | 214.0     | 210.1   | -2%  |

出所: Trade Data Monitor, LLC.のデータを使用して当事務所が作成

2023/24年度の2024年9月までの中国向け輸出量は7%の増加を示しているが、中国では輸入グレープフルーツが生食用のほか加工に使用される。しかし、生産者が加工用グレープフルーツの輸出を制限しているため、出荷量は2021/22年度と比較してほぼ50%減少した。当事務所の情報提供者らの報告によると、南アフリカから2023/24年度に加工用品質のグレープフルーツを輸入したのは中国だけであった。

2022/23年度には、一部のグレープフルーツ産地で輸出用のクラス2の果実の梱包を減らし、代わりに国内での加工と消費に振り向けたことから、輸出量は前年比9%減の21万6,569トンと推定される。

総量はまだ少ないものの、米国へのグレープフルーツの輸出量は、2010/11年度の275トンから2022/23年度の8,990トンへと、年平均68%の割合で増加してきている。南アフリカの2023/24年度9月までの米国向け輸出量は1万1,061トンで、2022/23年度の同時期と比較して23%増加しており、2023/24年度の

米国向け輸出量は史上最高となると推定される。輸出量の増加は、米国フロリダ州の生産量が減少したことにより一部起因している。北ケープ州で生産されるスタールビー品種は、米国の夏の間、同国向けの人気のある輸出品となっている。

表8 南アフリカのグレープフルーツの生産需給統計

| グレープフルーツ(生鮮)<br>販売年度の始まり<br>南アフリカ | 2022/2023 |       | 2023/2024 |       | 2024/2025 |       |
|-----------------------------------|-----------|-------|-----------|-------|-----------|-------|
|                                   | 2023年1月   |       | 2024年1月   |       | 2025年1月   |       |
|                                   | 農務省公式     | 今回推計値 | 農務省公式     | 今回推計値 | 農務省公式     | 今回推計値 |
| 栽培面積(ヘクタール)                       | 8,097     | 8,097 | 8,000     | 8,000 | 0         | 7,900 |
| 収穫面積(ヘクタール)                       | 7,530     | 7,530 | 7,650     | 7,200 | 0         | 7,300 |
| 結果樹本数(千本)                         | 8,250     | 8,250 | 8,200     | 8,200 | 0         | 8,150 |
| 未結果樹本数(千本)                        | 900       | 900   | 850       | 850   | 0         | 830   |
| 合計果樹本数(千本)                        | 9,150     | 9,150 | 9,050     | 9,050 | 0         | 8,980 |
| 生産量(千トン)                          | 415       | 415   | 420       | 420   | 0         | 425   |
| 輸入量(千トン)                          | 8         | 8     | 5         | 3     | 0         | 3     |
| 総供給量(千トン)                         | 423       | 423   | 425       | 423   | 0         | 428   |
| 輸出量(千トン)                          | 217       | 217   | 218       | 214   | 0         | 215   |
| 生鮮国内消費量(千トン)                      | 5         | 5     | 5         | 2     | 0         | 2     |
| 加工仕向量(千トン)                        | 201       | 201   | 202       | 207   | 0         | 211   |
| 総仕向量(千トン)                         | 423       | 423   | 425       | 423   | 0         | 428   |

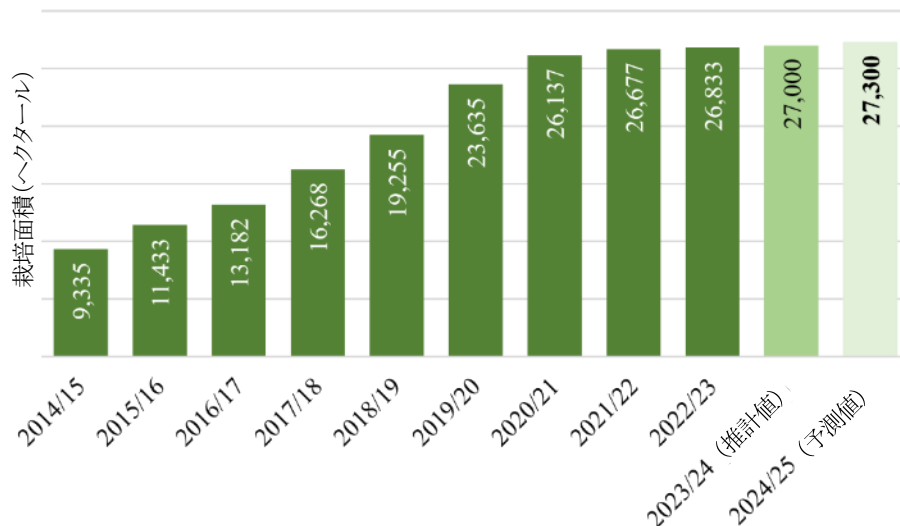
公式データは [PSD Online Advanced Query](#) から入手できる。

## <タンジェリン/マンダリン>

### 栽培面積

当事務所は、2024/25年度のタンジェリン/マンダリン(「ソフト柑橘類」としても知られる)の栽培面積を、1%増の2万7,300ヘクタールと予測する。このわずかな増加は、輸出市場でのソフト柑橘類の需要が比較的高いことから、グレープフルーツ等の他の柑橘類からソフト柑橘類に移行したことを反映している。

図12 南アフリカのタンジェリン/マンダリン栽培面積



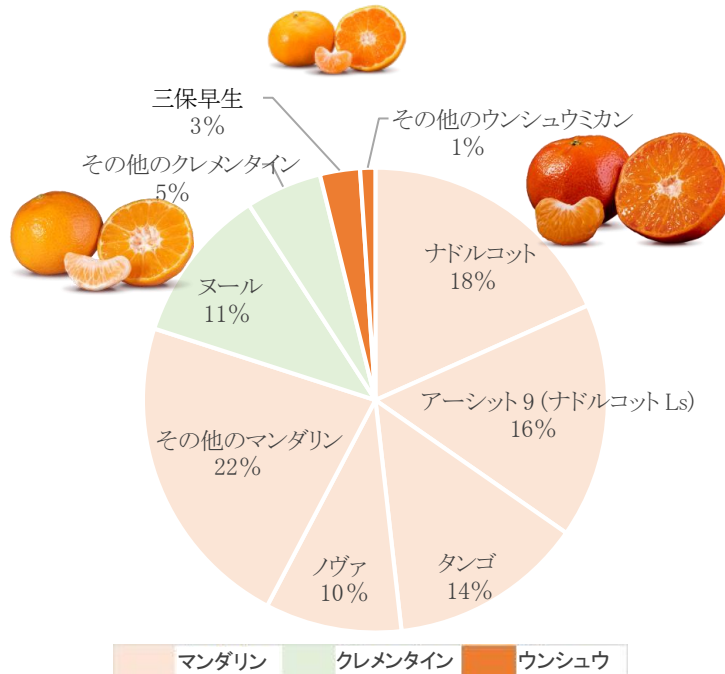
出典: CGAのデータを使用して当事務所が作成

南アフリカのタンジェリン/マンダリンの栽培面積の拡大は減速しており、当事務所の推定では2023/24年度の増加は1%であった。種無しソフト柑橘類に対する世界的な需要の高まりと、他の柑橘類と比較して高い利益率に牽引され、生産者は2010年代後半に多くの新植を行った(図12)。その後、生産者は、害虫をより適切に防除し、より良い水管理手法を可能にし、強風、降雹、または日光による損傷から果実を保護するための防護ネット下での栽培面積を拡大してきた。さらなる投資は、電力と水の喪失リスクを管理するための代替エネルギーの供給源に焦点を当てている。しかし、効率の悪い港湾運営、業績が低調な鉄道システム、劣

化が進む道路網等、より広範なインフラの非効率性により収益性が低下し、継続的な投資が制約されている。2022/23年度には、苗木の販売率が低下し、タンジェリン/マンダリンの栽培面積の増加は再び1%であった。西ケープ州、リンポポ州、クワズールナタール州の産地では、栽培面積の微増が見られた。

西ケープ州はソフト柑橘類の主要産地であり、2022/23年度から2%ポイント増加して南アフリカの総生産量の38%を占め、リンポポ州(28%)と東ケープ州(24%)がこれに次いでいる。樹齢4年以下の果樹園は、南アフリカのソフト柑橘類栽培面積の約18%を占めており、これは今後数年間にわたって市場に入荷するソフト柑橘類の量が増えることを意味している。

図13 南アフリカで生産されるタンジェリン/マンダリン品種



出典: CGAのデータを使用して当事務所が作成

栽培されている主な品種はナドルコットで、総栽培面積の約18%を占めている。ナドルコットに続いて、アーシット9(16%)、タンゴ(14%)、ヌール(11%)、ノヴァ(10%)、リーナリ(7%)、オッリ(7%)となっている。

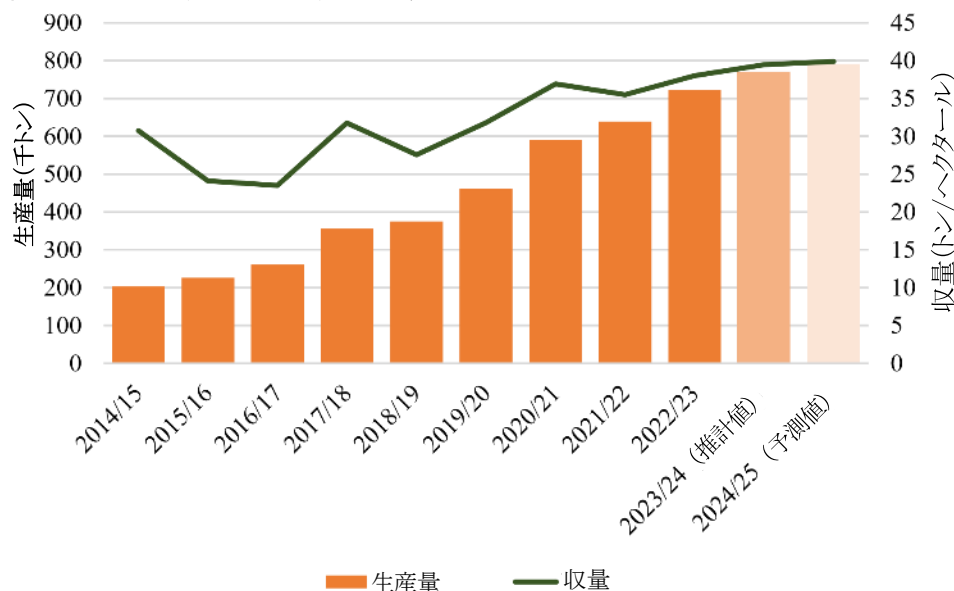
### 生産

当事務所は、2024/25年度の生産量を、平年並みの天候条件、若い果樹の成木化、灌漑用水の確保を前提に、2023/24年度に比べて3%増となる79万トンと予測する(図14)。生産者は防雹ネットを張っていることが観察されており、これは収量と果実の品質の両方を改善することが期待されている。

当事務所は、産地の悪天候により、2023/24年度の実績推計値を77万トンに引き下げた。東ケープ州は強風に、西ケープ州は洪水にそれぞれ見舞われ、果実が失われた。これらの条件であっても、若い果樹の成木化と収穫面積の拡大により、2023/24年度の実績推計値は2022/23年度と比較して7%増加したと推定される。

2022/23年度の実績推計値は、果樹の成木化と、かなりの量の降雨が主要産地の灌漑用水を補充したことにより、13%急増して72万3千トンとなった。

図14 タンジェリン/マンダリンの生産量



出典：農業・土地改革・農村開発省 (DALRRD) のデータを使用して当事務所が作成

### 輸出

タンジェリン/マンダリンの輸出シーズンは通常、第11週(3月)頃に始まり第44週(11月)まで続く。輸出には通常、第19～23週(5月～6月)と第27～34週(7月～8月)の2つのピークがある。ほとんどのマンダリンは、産地に近いケープタウン港(48%)及びダーバン港(34%)から輸出される。ナドルコットとタンゴが最も輸出量が多いマンダリン品種で、クレメンタインとノヴァがそれに続いている。ウンシュウミカンとクレメンタインは早生の輸出用品種であり、ナドルコットとタンゴは輸出シーズンの半ばから後半にかけて大半を占める。

当事務所は、品質改善への投資により輸出品質の果実の生産が増加することから、2024/25年度のタンジェリン/マンダリンの輸出量は3%増の67万4千トンと見込む。輸出の成長は、特にEU、英国、中東、アジア、北米等の主要市場をはじめとする世界的な需要の高まりによっても推進されると見られる。

当事務所は、2023/24年度のタンジェリン/マンダリンの輸出量が、生産量の増加により2022/23年度から5%増加したと推定する。2023/24年度の輸出量が前回の予測から下方修正されたのは、悪天候により輸出品質の果実が失われたことによるものである。2022/23年度のタンジェリン/マンダリンの輸出量は、生産量の増加と輸送費の適正化を背景に19%増加した(表9)。

表9 南アフリカの生鮮タンジェリン/マンダリンの輸出量

| 順位 | 輸出先国     | 暦年 千トン  |         |      |      | 1月～9月 千トン |         |      |
|----|----------|---------|---------|------|------|-----------|---------|------|
|    |          | 2021/22 | 2022/23 | シェア% | 増減率% | 2022/23   | 2023/24 | 増減率% |
| 1  | オランダ     | 102.0   | 134.2   | 22%  | 32%  | 127.4     | 141.2   | 11%  |
| 2  | 英国       | 87.8    | 97.4    | 16%  | 11%  | 90.9      | 84.4    | -7%  |
| 3  | アラブ首長国連邦 | 40.0    | 57.4    | 9%   | 44%  | 52.6      | 49.2    | -6%  |
| 4  | ロシア      | 51.3    | 52.0    | 8%   | 1%   | 49.8      | 66.1    | 33%  |
| 5  | 米国       | 53.5    | 49.6    | 8%   | -7%  | 49.0      | 38.8    | -21% |
| 6  | 中国       | 23.1    | 30.9    | 5%   | 33%  | 30.7      | 25.7    | -16% |
| 7  | カナダ      | 22.9    | 29.3    | 5%   | 28%  | 26.9      | 33.1    | 23%  |
| 8  | バングラデシュ  | 21.8    | 22.2    | 4%   | 2%   | 21.5      | 18.2    | -15% |
| 9  | ポルトガル    | 10.9    | 17.3    | 3%   | 59%  | 17.1      | 18.2    | 6%   |
| 10 | 香港       | 9.5     | 11.4    | 2%   | 21%  | 11.2      | 9.7     | -13% |
| 11 | サウジアラビア  | 9.4     | 10.3    | 2%   | 9%   | 10.0      | 10.4    | 5%   |
| 12 | インド      | 5.2     | 9.0     | 1%   | 75%  | 8.7       | 13.6    | 57%  |
|    | その他      | 83.3    | 101.0   | 16%  | 21%  | 94.9      | 119.1   | 25%  |
|    | 合計       | 520.6   | 622.0   | 100% | 19%  | 590.7     | 628.0   | 6%   |

出所：Trade Data Monitor, LLC.のデータを使用して当事務所が作成

南アフリカのソフト柑橘類の最大の海外市場はEUと英国で、合わせて総輸出量の45%を占め、次いでアラブ首長国連邦(9%)、ロシア(8%)、米国(8%)、中国(4%)、カナダ(5%)となっている(表9)。AGOA(米国のアフリカ成長機会法)に基づく南アフリカから米国へのソフト柑橘類輸出は、2017/18年度の1万3,695トンから2021/22年度には5万3,489トンと年平均42%で増加した。2023/24年度の米国への輸出量は減少したと推定されるものの、当事務所は、「皮が剥きやすい」品種(ソフト柑橘類)に対する米国の消費者の嗜好の高まりにより、増加傾向が続くものと予想する。

表11 南アフリカのタンジェリン/マンダリンの生産需給統計

| タンジェリン/マンダリン(生鮮)<br>販売年度の始まり<br>南アフリカ | 2022/2023 |        | 2023/2024 |        | 2024/2025 |        |
|---------------------------------------|-----------|--------|-----------|--------|-----------|--------|
|                                       | 2023年2月   |        | 2024年2月   |        | 2025年2月   |        |
|                                       | 農務省公式     | 今回推計値  | 農務省公式     | 今回推計値  | 農務省公式     | 今回推計値  |
| 栽培面積(ヘクタール)                           | 26,833    | 26,833 | 27,000    | 27,000 | 0         | 27,300 |
| 収穫面積(ヘクタール)                           | 1,900     | 1,900  | 19,500    | 19,450 | 0         | 19,800 |
| 結果樹本数(千本)                             | 10,405    | 10,405 | 10,470    | 10,470 | 0         | 10,550 |
| 未結果樹本数(千本)                            | 3,850     | 3,850  | 3,870     | 3,870  | 0         | 3,910  |
| 合計果樹本数(千本)                            | 14,255    | 14,255 | 14,340    | 14,340 | 0         | 14,460 |
| 生産量(千トン)                              | 723       | 723    | 780       | 770    | 0         | 790    |
| 輸入量(千トン)                              | 4         | 4      | 3         | 3      | 0         | 3      |
| 総供給量(千トン)                             | 727       | 727    | 783       | 773    | 0         | 793    |
| 輸出量(千トン)                              | 622       | 622    | 670       | 655    | 0         | 674    |
| 生鮮国内消費量(千トン)                          | 36        | 36     | 43        | 47     | 0         | 48     |
| 加工仕向量(千トン)                            | 69        | 69     | 70        | 71     | 0         | 71     |
| 総仕向量(千トン)                             | 727       | 727    | 783       | 773    | 0         | 793    |

公式データは [PSD Online Advanced Query](#) から入手できる。

## <オレンジ果汁>

### 生産

南アフリカの生産者は従来から、主に生鮮輸出市場向けにオレンジを生産しているが、一部の生産者、特に降雹被害やその他の品質を低下させる気象の影響を受けやすい地域の生産者は、主に加工施設に供給するためにオレンジを生産している。

2023/24年度以降、国内の搾汁業者は、果実生産者が輸出品質の果実を加工用に出荷することを検討するほどの非常に高い価格を支払っていると報告されている。このオレンジ果汁価格の高騰は、ブラジルのオレンジ生産が悪天候とカンキツグリーニング病により減少傾向にあることに起因している。当事務所の情報提供者らの報告によると、果汁価格は短期的には高止まりすると予想され、生産者は加工業者への出荷を増やすものと予想される。果汁製造が(果実生産者にとって)有望でリスクの低い代替出荷先となっていることから、当事務所は、2024/25年度のオレンジ果汁製造量を、2023/24年度に比べて4%増の5万7,100トンと予測する。果汁の価格は高止まりしており、果実生産者は輸出用の果実を加工に転用し、包装と輸送のコストを削減しつつ、良好な収益を得るものと予想される。

2023/24年度のオレンジ果汁製造量は、主要産地での果実の損失により5万4,700トンに下方修正するが、この製造量は2022/23年度に比べて48%増に当たるものと推定される。また、悪天候により果実が小玉化し、加工用に出荷される果実が増加した。当事務所の情報提供者らは、通常は国内市場で生鮮果実として販売される早生のオレンジ品種が加工用に出荷されたと報告している。一部の生産者は、海外市場と国内の果汁業者の価格差が最小限であるため、シーズン終了時の収益が減少する可能性はあるものの、港湾や輸送の課題に起因するリスクと不確実性が軽減することから出荷計画を再考したと報告している。

2022/23年度のオレンジ果汁の製造量は、加工仕向量の増加と生産者にとっての価格の改善により、4%増加した。業界では、年間を通じて供給可能性を確保するため、前シーズンからの繰り越し在庫を保持している。濃縮オレンジ果汁は、南アフリカで生産されるオレンジ果汁全体の少なくとも90%を占めている。

南アフリカでは、オレンジ果汁の業務統計はほとんど入手できない。生産量、消費量及び在庫水準は、

様々な情報源や協力者からの情報、及び加工用に仕向けられた生鮮オレンジに関するデータから算出した搾汁量に基づく当事務所の推計及び予測を表している。

## 輸出

当事務所は、2024/25年度のオレンジ果汁の輸出量を、製造量の増加により1%増の4万1,500トンと予測する。当事務所は、2023/24年度のオレンジ果汁輸出量の推計値を4万1千トンに引き下げたが、これは、2023/24年度の4月から9月までの輸出ペースが2022/23年度の同時期に比べて減速したことを反映している。2022/23年度のオレンジ果汁の輸出量は、世界的な需要の改善と有利な価格水準により、32%増加したものと推定される。

当事務所は、すべてのオレンジ果汁の輸出データを、以下に示すそれぞれの換算係数に基づいて、ブリックス値65相当に調整した。HS(貿易品目コード)200919のオレンジ果汁の輸出量は係数1.02で変換し、HS200912のオレンジ果汁の輸出量は係数0.18で変換した。HS200911のオレンジ果汁の輸出量は、既にブリックス値65に相当するため調整していない。ブリックス値は、糖度に基づく果汁の濃度を表す。したがって、ブリックス値65は、オレンジ果汁が果汁100グラム当たり少なくとも65グラムのショ糖を含有していることを意味する(原文のまま)。

南アフリカは、エスワティニ、ボツワナ、ナミビア、レソト、ジンバブエ等、主に南部アフリカの国々にオレンジ果汁を輸出している(表15)。ヨーロッパも南アフリカのオレンジ果汁の重要な市場である。米国は南アフリカのオレンジ果汁輸出で6番目に大きな市場であり、2022/23年度の輸出先シェアは4%を占めている。2023/24年度の4月から9月までの米国向け輸出量は46%減少したが、当事務所は、販売年度末までの輸出量が1千トンをわずかに超える程度に回復すると予想する。

表15: 南アフリカのオレンジ果汁輸出(HS200919、HS200911、HS200912)

| 順位 | 輸出先国   | 年度(4月~3月) トン(換算量) |         |      |      | 4月~9月   |         |      |
|----|--------|-------------------|---------|------|------|---------|---------|------|
|    |        | 2021/22           | 2022/23 | シェア% | 増減率% | 2022/23 | 2023/24 | 増減率% |
| 1  | オランダ   | 9,275             | 13,040  | 32%  | 41%  | 7,066   | 8,448   | 20   |
| 2  | ボツワナ   | 3,860             | 9,067   | 22%  | 135% | 3,387   | 2,891   | -15  |
| 3  | エスワティニ | 2,924             | 2,899   | 7%   | -1%  | 1,278   | 1,466   | 15%  |
| 4  | ナミビア   | 2,014             | 2,669   | 6%   | 33%  | 1,124   | 1,066   | -5%  |
| 5  | イスラエル  | 1,959             | 1,722   | 4%   | -12% | 700     | 675     | -4%  |
| 6  | 米国     | 1,871             | 1,540   | 4%   | -18% | 618     | 334     | -46% |
| 7  | スペイン   | 928               | 1,523   | 4%   | 64%  | 797     | 95      | -88% |
| 8  | イタリア   | 930               | 1,230   | 3%   | 32%  | 997     | 178     | -82% |
| 9  | レソト    | 1,005             | 1,132   | 3%   | 13%  | 327     | 370     | 13%  |
| 10 | エチオピア  | 803               | 880     | 2%   | 10%  | 443     | 504     | 14%  |
| 11 | ジンバブエ  | 896               | 828     | 2%   | -8%  | 314     | 220     | -30% |
| 12 | ザンビア   | 677               | 631     | 2%   | -7%  | 365     | 108     | -70% |
|    | その他    | 4,033             | 3,902   | 10%  | -3%  | 1,798   | 1,331   | -26% |
|    | 合計     | 31,175            | 41,063  | 100% | 32%  | 19,214  | 17,686  | -8%  |

出所: Trade Data Monitor, LLC.のデータを使用して当事務所が作成

表16 南アフリカのオレンジ果汁の生産需給統計

| オレンジ果汁<br>販売年度の始まり | 2022/2023 |         | 2023/2024 |         | 2024/2025 |         |
|--------------------|-----------|---------|-----------|---------|-----------|---------|
|                    | 2023年4月   |         | 2024年4月   |         | 2025年4月   |         |
| 南アフリカ              | 農務省公式     | 今回推計値   | 農務省公式     | 今回推計値   | 農務省公式     | 今回推計値   |
| 原料の加工仕向量(トン)       | 369,000   | 369,000 | 588,000   | 547,000 | 0         | 571,000 |
| 期首在庫(トン)           | 13,240    | 13,240  | 6,989     | 6,989   | 0         | 20,113  |
| 製造量(トン)            | 36,900    | 36,900  | 58,800    | 54,700  | 0         | 57,100  |
| 輸入量(トン)            | 1,112     | 1,112   | 800       | 2,574   | 0         | 1,500   |
| 総供給量(トン)           | 51,252    | 51,252  | 66,589    | 64,263  | 0         | 78,713  |
| 輸出量(トン)            | 41,063    | 41,063  | 47,000    | 41,000  | 0         | 41,500  |
| 国内消費量(トン)          | 3,200     | 3,200   | 3,200     | 3,150   | 0         | 3,120   |
| 期末在庫(トン)           | 6,989     | 6,989   | 16,389    | 20,113  | 0         | 34,093  |
| 総仕向量(トン)           | 51,252    | 51,252  | 66,589    | 64,263  | 0         | 78,713  |

公式データは [PSD Online Advanced Query](#) から入手できる。